

しらおか歴史物知りシート No.3-1

こもれびの森・歴史資料展示室

【紙本着色新井白石画像 添書き】 19世紀

新井白石の子孫に当たる新井成美が、領地であった野牛の観福寺に奉納したものです。新井成美は、尊崇する祖先の肖像画が火災で失われることを大変心配し、同じものを3幅作らせたのです。成美の予想は当たっており、相州龍宝寺のものは火災で失われてしまったようです。

この肖像画には絵師の署名や落款、由緒書きなどが一切ありません。また、白石公の膝の両脇には全く遊びがなく、紙幅一杯に描かれているなど、やや不自然なところがあります。

成美の添書きは、現在は、軸の裏に表装されていますが、元来肖像画と同一面に書かれていたものが、何らかの理由で切り離され、裏面に貼られたのだとしたらどうでしょう。添書きと成美の署名が継ぎ接ぎされていることも合点が行くように思います。

【読み下し】

これは予の祖先、源 大夫筑州白石君美の影像なり。同像は三つ有り。一つは、私館に在り。一つは相州龍宝寺に有り。今また其の一つを以って、當寺に附託す。蓋し三所に處を分つ所以は、則ち固く祝融の災を恐れ致す所なり。故に永く世の法を護り、輕蔑有る可からざるものなり。

源朝臣君美五世孫新井成美謹書

【現代語訳】

これは、私の祖先である 源 大夫筑州白石君美の肖像である。肖像は三つ有り、その一つは私の館に在る。もう一つは相州龍宝寺に有る。そして今、もう一つを当寺（観福寺）に託す。肖像画を三か所に分けて保管する理由は、固く火災を心配してのことである。ゆえに、永くしきたりや規範を護り、（祖先を）軽んじたり馬鹿にしてはいけない。

源朝臣君美五世孫新井成美謹書

○大夫：五位の官位を授けられた人を表す尊称 ○筑州：筑後守

○相州：相模国（現在の神奈川県） ○祝融災：火災